■大学入試で夢を実現するために

＊大学入試のしくみ

1　学力の3要素と「調査書」

2021 年度入試からの高大接続改革により、各大学はアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づき、「学力の3要素」をバランスよく評価することが明確化された。

「学力の3要素」とは、以下の①～③である。

①「知識・技能」（基礎的・基本的な知識・技能）

②「思考力・判断力・表現力等」（知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力）

③「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」

また、上記の一環として調査書の「指導上参考となる諸事項」の欄が拡充され、下記の①～⑥が記入できるようになった。

①学習における特徴等

②行動の特徴、特技等

③部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等

④取得資格・検定等

⑤表彰・顕彰等の記録（生徒が自ら関わってきた諸活動など）

⑥その他

以前と比べて調査書の比重が増したといえるが、大学が調査書や志願者本人の記載する資料等を入試で「どのように」活用するかについては、募集要項に記載することが求められている。

2　一般選抜（共通テスト、個別学力試験）

一般選抜は、主に学力試験による入試であり、通常「大学入試」といえば一般選抜をイメージすることが多い。国公立大学では、1次試験として共通テストを課し、2次試験として大学独自の試験を課している。私立大学では、大学独自の試験のみで合否を判定する方式と、共通テストの成績を利用して判定する方式とがある。

（1）大学入学共通テスト

2021 年度入試から始まった共通テストの出題形式は、マークシート方式である。多くの私立大学が参加していることから、アラカルト方式（各大学・学部が合否判定に用いる教科・科目を自由に設定できる方式）を採用している。

地理歴史と公民は、両者をあわせて1教科として扱い、最大で2科目受験することができる。2科目選択して解答する場合、試験時間 130 分のうち前半 60 分で解答する科目を「第1解答科目」、答案回収のための時間 10 分を挟んで、後半 60 分で解答する科目を「第2解答科目」と呼んでいる。大学が合否判定に用いる地理歴史・公民の科目が1科目だけのときに受験者が2科目解答した場合、「第1解答科目」の成績を利用するか、「高得点の科目」を利用するかは大学・学部によって対応が分かれている。

理科については、試験時間区分は2つに分かれ、理科①として「化学基礎」、「生物基礎」など「基礎を付した科目」が、理科②として「化学」「物理」など「基礎を付さない科目」が出題される。受験者は、次に示すA～Dのいずれかの方法のうち、出願をする大学・学部・学科が指定する中で、受験する科目を選択しなければならない。

A：理科①から2科目

B：理科②から1科目

C:理科①から2科目及び理科②から1科目

D:理科②から2科目

なお、大学が合否判定に用いる理科②の科目が1科目だけの場合の扱いは地理歴史・公民の場合と同様である。

(2)国公立大学の一般選抜

国公立大学の一般選抜では、1次試験として共通テストを、2次試験として各大学個別の試験を課しており、これらの成績をあわせて合否の判定を行う。大学によっては、「傾斜配点」や「2段階選抜」を取り入れているところもある。

①傾斜配点

共通テストの成績を合否判定に利用する際には、各大学が独自の配点を定めることができる。その中でも、2次試験に課されない教科や、学部ごとに専攻する学問分野に関連する教科の配点は高くなることが多い。大阪大工学部の例でみると、共通テストの地理歴史・公民は 50%、リーディング・リスニングは 25%、国語と数学は 37.5%、理科は 25%に換算されることとなっており、2次試験を実施しない地理歴史・公民の配点は高く、2次試験を実施する理科、外国語の配点は低く換算されていることがわかる。

大阪大　工学部　共通テスト傾斜配点（2022 年度前期日程）

		国語	地歴・公民（1科目）	数学	理科（2科目）	外国語（英語） リーディング	外国語（英語） リスニング	計
共通テストの標準配点		200	100	200	200	150	50	900
大阪大理学部	共通テスト	75	50	50	75	37.5	12.5	300
						50		
	個別試験	なし	なし	250	250	200		700

共通テストについては、リーディング・リスニングは25%、国語・数学は37.5%、理科は25%、地理歴史・公民は50%に換算される。

英語を選択した場合は、全学部において、リーディング 100 点、リスニング 100 点、計 200 点満点をリーディング 150 点満点、リスニング 50 点満点にし、さらに各学部で利用する配点に換算される。

出典：令和 4 年度大阪大学入学者選抜要項

②2段階選抜

国公立大学の中には、共通テストによって第1段階の選抜を行い、これに合格した受験生のみが2次試験を受けることができるという「2段階選抜」を行っているところもある。通常は、第1段階で選抜する人数が事前に発表されており(募集人員の3～5倍程度のことが多い)、受験生は共通テストの成績を自己採点してこれを基に出願することになる。大学によっては、共通テストの成績は第1段階の選抜のみに用い、合否判定は2次試験の成績のみで行うところもある。

◆国公立大学の1次試験(共通テスト)

1次試験(共通テスト)では、文系学部では、外国語、国語、数学2科目、地理歴史・公民から2科目、理科①から2科目または理科②から1科目の、合計5教科7科目(または6教科8科目)を課す場合が多い。理系学部では、外国語、国語、数学2科目、地理歴史・公民から1科目、理科②から2科目の合計5教科7科目を課す場合が多い。なお、難関大学を中心に、公民は『倫理、政治・経済』のみを選択可(「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」は選択不可)としている大学が多い。

◆国公立大学の2次試験（個別学力試験）

国公立大学の2次試験は「分離・分割方式」で実施される。これは、個別学力試験の日程と募集人員を前期日程と後期日程の2つに分けて試験を実施する方式である。なお、一部の公立大学ではこのほかに中期日程の試験を行うところもある。これによって受験生は2回（または3回）の受験機会が得られることになる。

前期日程の試験で合格して入学手続きをすると、後期日程では合格となる資格がなくなってしまう（中期日程も同様）ので、通常は前期日程で第1志望校に出願することになる（もちろん、前期・後期とも第1志望校に出願してもよい）。もっとも、最近は募集人員の大部分を前期日程にあてて後期日程の募集人員を少なくしている大学が多く、また、後期日程の募集を停止する大学もある。東京大は 2016 年度から推薦入試（学校推薦型選抜）を導入し後期日程の試験を廃止、大阪大は 2017 年度からAO入試（総合型選抜）および推薦入試（学校推薦型選抜）を導入し、8学部で後期日程を廃止した。一橋大は、2018 年度から社会学部と法学部で後期日程を廃止すると同時に、全学部で推薦入試（学校推薦型選抜）を導入し、後期日程は経済学部のみで実施。北海道大は、2022 年度から医学部（保健学科）の後期日程を廃止した。

（3）私立大学の一般選抜

私立大学の一般選抜は、かつては大学独自の個別試験のみで行われていた。2000 年のセンター試験（当時）を利用していたのは 242 校であったが、2022 年の共通テストは、533 校（約9割）の私立大学が利用している。

私立大学入試の特徴は①何校でも併願が可能である、②複数の大学に合格してもいずれの大学の入学資格も失わない、③ほぼ全ての私立大学が複数の試験日程・試験方式を設けており受験機会が豊富にあることなどが挙げられる。

私立大学の一般選抜の方式にはいくつかあるが、①大学独自の試験のみで合否判定を行う「個別試験方式」、②共通テストの成績のみで合否を判定する「共通テスト単独方式」、③共通テストと大学独自の試験の両方の成績で合否判定を行う「共通テスト併用方式」の3つが代表的である。また、大学の全学部で共通の試験を行って受験生は同時に複数の学部・学科に出願できる「全学部統一方式」を導入する大学もある。さらに、上智大の「TEAP スコア利用型入試」のように、英語の外部試験と大学独自の試験を組み合わせた方式を導入する大学も増えている。また、大学の所在地以外に試験会場を設けて（全国の主要都市で行う場合が多い）、受験生が自宅から近い試験会場で受験することができる「地方会場入試」を行う大学も大規模大学を中心に増加している。

なお、web 出願の際に、主体性、多様性、協働性に関する経験等を入力しなければならない場合がある。例えば、明治大は「『主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度』を持って活動・経験してきたと受験生本人が考えている内容について、500 文字以内」の入力を求めている。慶應義塾大は「『主体性』『多様性』『協働性』についてどのように考え、心掛けてきたかについて、100 文字以上、500 文字以内」である。2021 年度入試からの改革の一環として「主体性の評価」が求められているためだが、いずれも出願要件ではあるが、合否判定に利用されずに、入学後の参考資料として活用されることが多い。

◆個別試験方式

多くの大学で、この個別試験方式の募集人員が最も多く、最もオーソドックスな試験方式である。個別試験の試験科目は3科目としている大学が多く、文系学部では英語、国語、地理歴史または公民の3科目、理系学部では英語、数学、理科の3科目としている大学が多い。早稲田大の理工系学部や慶應義塾大理工学部などのように理科2科目が必須で計4科目を課している場合もある。このほかにも、2科目型、1科目型、得意科目重視型などがある。2科目型は受験する科目が指定されている場合もあるが、受験生が得意科目を選択できる場合や、3科目以上受験して得点の高い科目の成績を合否判定に用いる場合など、大学によってさまざまである。また、入試日程を複数用意して、他大学や同一大学の他学部との併願がしやすいように配慮している大学もある。

◆共通テスト単独方式

共通テスト単独方式では、共通テストの成績のみで合否を判定し、大学独自の試験は行わない。したがって、受験生は共通テストを受けるだけで複数の大学や学部を受験することが可能で、受験料も個別試験方式より安いことが多い。また、個別試験を受けるために遠方の受験会場へ行く必要がないため、交通費や宿泊費を節約することができる。ただし、共通テスト単独方式は募集人員が少ないことが多く、倍率が高くなる傾向がある。

◆共通テスト併用方式

共通テスト併用方式は、共通テストの成績と大学独自の試験の成績の両方をあわせて合否判定を行う試験方式である。受験生の学力を多面的な角度から評価することができるが、受験生にとっては両方の試験を受けなければならず、負担が大きい。（上智大や青山学院大などでは、2021 年度入試より併用方式が募集の中心となっている）

このように、私立大学の入試制度はさまざまであり、受験機会が増えて受験生にとって有利になった反面、自分にとって最適な試験方式を見極めるのが難しくなってきている。

3　総合型選抜

総合型選抜は、2020 年度まで「AO（アドミッション・オフィス）入試」と呼称されていた試験方式である。

通常の学力試験による入試と異なり、受験者が「大学が求める人物像（アドミッション・ポリシー）」に合致しているかどうかで合否を判定する試験方式であり、2021 年度入試からは、各大学の実施する評価方法等（小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など）または共通テストのいずれかの活用が必須化されることとなった。受験生の適性を多面的・総合的に評価する選抜方式である。

従来のAO入試は、慶應義塾大 SFC（湘南藤沢キャンパス）2 学部が 1990 年に導入し、その後急速に導入する大学が増加した。最近では、私立大学だけでなく国公立大学でも総合型選抜の導入が拡大している。2022 年度入試では、102 校（前年度比 103.0%）の国公立大学が総合型選抜を実施した。

国立大学の総合型選抜の募集人員の割合は、2018 年度の 4.2%から 2022 年度には 6.6%まで大幅に増加しており、また、公立大学では 2018 年度の 2.5%から 2022 年度は 3.5%といずれも増加している。

以前は、AO入試の募集開始時期に制限がなかったために、学生をできるだけ早く確保したいと考えて募集開始時期をどんどん前倒しにする大学がでてくるようになった。しかし、「学生の青田買いにつながる」との批判が強くなったことから、2011 年度からは制限されるようになり、2021 年度からは出願時期は9月1日以降、合格発表時期は 11 月1日以降となっている。

また、従来のAO入試では学力試験を行わなかったため、AO入試で入学した学生の学力不足が問題となっていた。そのため、2021 年度入試からの総合型選抜では、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、教科、科目に係るテスト、または共通テストなどで、学力を適切に評価することが求められている。加えて、入学前教育が積極的に実施されている。

4　学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、2020 年度まで「推薦入試」と呼称されていた試験方式である。受験者が出身高校からの推薦を受け、高校が発行した調査書と面接や小論文などで合否を判定する試験方式である。2020 年度大学入学者選抜実施要項（文部科学省）では、「出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し，調査書を主な資料として評価・判定する入試方法」と記載されていたが、2021 年度入試からは、「原則として学力検査を免除し」が削除され、調査書・推薦書等の出願書類だけでなく、総合型選抜同様に各大学が実施する評価方法等（小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績など）または共通テストのいずれかの活用が必須化された。

学校推薦型選抜は、大きく分けて指定校制推薦と公募制推薦とに分けられる。

指定校制推薦は、大学が指定した高校からのみ出願ができる方式である。これは、高校と大学との間の信頼関係によって成り立っている制度であり、推薦されればほぼ合格できる。ただし、推薦できる人数（推薦枠）が限られているので、推薦を受けるためには高校内での選抜に勝ち残る必要がある。

公募制推薦は、どの高校からでも出願できる。通常は面接や小論文などで判定されるが、共通テストを課される場合もある。また、高校1年生から3年生の1学期までの全科目の「学習成績の状況」（旧「評定平均値」）が大学の定める基準を超えていることが出願の条件となっていることが多く、部活動や生徒会活動、ボランティア活動などが評価の対象になることもある。

また、2021 年度入試からは出願受付が 11 月1日以降、合格発表が 12 月1日以降に変更された。入学前教育についても総合型選抜と同様に積極的な実施を求めている。

◆国公立大学の学校推薦型選抜

国公立大学の学校推薦型選抜は基本的に公募制推薦であり、共通テストを課す大学が多い。また、過疎地の医師や教員の確保を目的として、大学卒業後に地元で就職することを前提にした「地域枠推薦」が医学部や教育学部で実施されているところもある。学校推薦型選抜の募集人員の割合は、国立大学では 2018 年度の 12.5%から 2020 年度は 12.8%と増加していたが、2021 年度、2022 年度は共に 12.5%と、増加が見られなくなっている。公立大学では、2018 年度の 25.5%から 2022 年度には 26.8%へと増加している。

◆私立大学の学校推薦型選抜

私立大学の学校推薦型選抜は、公募制推薦のほか指定校制推薦を実施している大学が多い。また、私立大学の学校推薦型選抜では、併願が認められている場合もある。通常の学校推薦型選抜のほか、スポーツ推薦、高度な技術が求められる特別推薦（いわゆる「一芸入試」）などもある。

5 2022 年度大学入学共通テスト

(1)共通テストの志願者数の推移

2022 年度共通テストの志願者数は、530,367 人であった。前年度から 4,878 人減少となった。18 歳人口の減少にもかかわらず、新型コロナウイルス感染症拡大などによる安全志向の影響もあり、減少幅は前年度よりも緩やかとなった。高等学校等卒業見込者(高3生)は前年度から 426 人減だったが、高等学校等卒業者(既卒生)は前年度から 4,452 人減と大幅減少となった。

(2)共通テストの平均点の推移

表1は、共通テスト(2020 年度まではセンター試験)の主要科目の平均点と7科目型を想定した総合平均点を文系と理系について算出したものである。

表1　共通テスト（2020 年度まではセンター試験）の主要科目の平均点と、7 科目型を受験することを想定したときの総合平均点の推移

科目名	配点	平均点					2018年度前年差	2019年度前年差	2020年度前年差	2021年度前年差	2022年度前年差
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度					
英語(リーディング)	100	61.87	61.65	58.15	58.80	61.80	0.01	-0.22	-3.50	0.65	3.00
英語(リスニング)	100	45.34	62.84	57.56	56.16	59.45	-10.88	17.50	-5.28	-1.40	3.29
数学Ⅰ・A	100	61.91	59.68	51.88	57.68	37.96	0.79	-2.23	-7.80	5.80	-19.72
数学Ⅱ・B	100	51.07	53.21	49.03	59.93	43.06	-1.00	2.14	-4.18	10.90	-16.87
国語	200	104.68	121.55	119.33	117.51	110.26	-2.28	16.87	-2.22	-1.82	-7.25
物理基礎	50	31.32	30.58	33.29	37.55	30.40	1.63	-0.74	2.71	4.26	-7.15
化学基礎	50	30.42	31.22	28.20	24.65	27.73	1.83	0.80	-3.02	-3.55	3.08
生物基礎	50	35.62	30.99	32.10	29.17	23.90	-3.85	-4.63	1.11	-2.93	-5.27
地学基礎	50	34.13	29.62	27.03	33.52	35.47	1.63	-4.51	-2.59	6.49	1.95
物理	100	62.42	56.94	60.68	62.36	60.72	-0.46	-5.48	3.74	1.68	-1.64
化学	100	60.57	54.67	54.79	57.59	47.63	8.63	-5.90	0.12	2.80	-9.96
生物	100	61.36	62.89	57.56	72.64	48.81	-7.61	1.53	-5.33	15.08	-23.83
地学	100	48.58	46.34	39.51	46.65	52.72	-5.19	-2.24	-6.83	7.14	6.07
日本史B	100	62.19	63.54	65.45	64.26	52.81	2.90	1.35	1.91	-1.19	-11.45
世界史B	100	67.97	65.36	62.97	63.49	65.83	2.53	-2.61	-2.39	0.52	2.34
地理B	100	67.99	62.03	66.35	60.06	58.99	5.65	-5.96	4.32	-6.29	-1.07
現代社会	100	58.22	56.76	57.30	58.40	60.84	0.81	-1.46	0.54	1.10	2.44
倫理	100	67.78	62.25	65.37	71.96	63.29	13.12	-5.53	3.12	6.59	-8.67
政治・経済	100	56.39	56.24	53.75	57.03	56.77	-6.62	-0.15	-2.49	3.28	-0.26
倫理、政治・経済	100	73.08	64.22	66.51	69.26	69.73	6.45	-8.86	2.29	2.75	0.47
文系平均点(5(6)教科7科目)	900	550.00	570.00	549.00	553.00	508.00	-2.00	20.00	-21.00	4.00	-45.00
理系平均点(5教科7科目)	900	560.00	575.00	556.00	571.00	514.00	0.00	15.00	-19.00	15.00	-57.00

※文系平均点は英語・数学2科目・国語・理科1科目・地歴公民2科目で算出
※理系平均点は英語・数学2科目・国語・理科2科目・地歴公民1科目で算出
※理科基礎は2科目必須のため、2科目で1科目とみなす
※英語はリーディングとリスニングの合計200点
※2021年度は得点修正後の第１日程の平均点
出典：大学入試センターの公表値より作成

各科目の平均点を見ていくと、「英語(リーディング)」(100 点満点)は前年度から 3.00 点アップ、「英語(リスニング)」(100 点満点)は 3.29 点アップとなった。国語(200 点満点)は 7.25 点のダウンであった。数学については、「数学Ⅰ・A」(100 点満点)は 19.72 点ダウン、「数学Ⅱ・B」(100 点満点)は 16.87 点ダウンとなり、大幅に難化した。理科については、「生物」が 23.83 点ダウンと大幅に難化した。「物理基礎」(50 点満点)は 7.15 点ダウン、「生物基礎」(50 点満点)は 5.27 点ダウンであった。地歴・公民については、「日本史 B」(100 点満点)が 11.45 点ダウン、「倫理」(100 点満点)は 8.67 点ダウンとなり、難化した。

これらをもとに、理系5教科7科目と文系5(6)教科7科目の総合平均点を算出すると、文系が 508.00 点(前年度比 45.00 点ダウン)、理系が 514.00 点(前年度比 57.00 点ダウン)となった。全体的な難化傾向に加え、「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」、「生物」の大幅な難化も影響し、易化傾向にあった前年度から一転、平均点が大幅にダウンする結果となった。

6　2022 年度大学入学共通テスト　特徴的な出題例

英語(リーディング)第３問Ａ

日本文化のイベントに参加したブロガーの記事とチラシを読み取り、複数の情報を併せて考えさせる出題である。

答）16:1　17:1

第３問　(配点　15)

A　You are interested in how Japanese culture is represented in other countries. You are reading a young UK blogger's post.

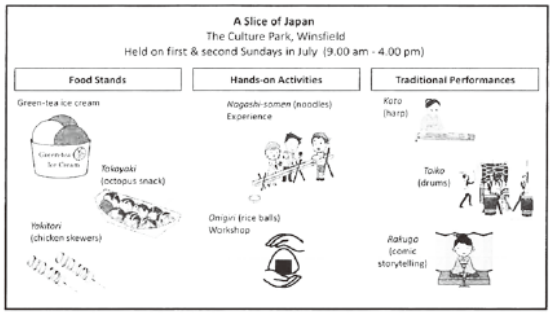
Emily Sampson
Monday, 5 July, 8.00 pm

On the first two Sundays in July every year, there is an intercultural event in Winsfield called A Slice of Japan. I had a chance to go there yesterday. It is definitely worth visiting! There were many authentic food stands called *yatai*, hands-on activities, and some great performances. The *yatai* served green-tea ice cream, *takoyaki*, and *yakitori*. I tried green-tea ice cream and *takoyaki*. The *takoyaki* was especially delicious. You should try some!

I saw three performances. One of them was a *rakugo* comedy given in English. Some people were laughing, but somehow I didn't find it funny. It may be because I don't know much about Japanese culture. For me, the other two, the *taiko* and the *koto*, were the highlights. The *taiko* were powerful, and the *koto* was relaxing.

I attended a workshop and a cultural experience, which were fun. In the workshop, I learnt how to make *onigiri*. Although the shape of the one I made was a little odd, it tasted good. The *nagashi-somen* experience was really interesting! It involved trying to catch cooked noodles with chopsticks as they slid down a bamboo water slide. It was very difficult to catch them.

If you want to experience a slice of Japan, this festival is for you! I took a picture of the flyer. Check it out.



問１　In Emily's blog, you read that she [16].

① enjoyed Japanese traditional music
② learnt how to play Japanese drums
③ made a water slide from bamboo
④ was able to try all the *yatai* foods

問２　Emily was most likely [17] when she was listening to the *rakugo* comedy.

① confused
② convinced
③ excited
④ relaxed

国語第２問　問５

小説の内容をノートに整理し、さらに他の情報（国語辞典・歳時記）を併せて、考えさせる出題である。

答）18:1　19:5

問5　Nさんは、二重傍線部「案山子にとまった雀はこんな気分がするだろうか、と動悸を抑えつつも苦笑した。」について理解を深めようとした。まず、国語辞典で「案山子」を調べたところ季語であることがわかった。そこでさらに、歳時記(季語を分類して解説や例句をつけた書物)から「案山子」と「雀」が詠まれた俳句を探し、これらの内容を【ノート】に整理した。このことについて、後の(i)・(ii)の問いに答えよ。

【ノート】

●国語辞典にある「案山子」の意味

㋐竹や藁などで人の形を造り、田畑に立てて、鳥獣が寄るのをおどし防ぐもの。とりおどし。

㋑見かけばかりもっともらしくて、役に立たない人。

●歳時記に掲載されている 案山子と雀の俳句 季語・秋。

ⓐ「案山子立つれば群雀空にしづまらず」（飯田蛇笏）

ⓑ「稲雀追ふ力なき案山子かな」（高浜年尾）

ⓒ「某は案山子にて候雀殿」（夏目漱石）

●解釈のメモ

ⓐ遠くにいる案山子に脅かされて雀が群れ騒ぐ風景。

ⓑ雀を追い払えない案山子の様子。

ⓒ案山子が雀に対して虚勢を張っているように見える様子。

●「案山子」と「雀」の関係に注目し、看板に対する「私」の認識を捉えるための観点。

・看板を家の窓から見ていた時の「私」→ X

・看板に近づいた時の「私」→ Y

(i)　Nさんは、「私」が看板を家の窓から見ていた時と近づいた時にわけたうえで、国語辞典や歳時記の内容と関連づけながら【ノート】の傍線部について考えようとした。空欄 X と Y に入る内容の組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 18 。

㋐ X ――歳時記の句ⓐでは案山子の存在に雀がざわめいている様子であり、国語辞典の説明㋐にある「おどし防ぐ」存在となっていることに注目する。

㋑ X ――歳時記の句ⓒでは案山子が虚勢を張っているように見え、国語辞典の説明㋑にある「見かけばかりもっともらし」い存在となっていることに注目する。

㋒ Y ――歳時記の句ⓑでは案山子が実際には雀を追い払うことができず、国語辞典の説明㋑にある「見かけばかりもっともらし」い存在となっていることに注目する。

㋓ Y ――歳時記の句ⓒでは案山子が雀に対して自ら名乗ってみせるだけで、国語辞典の説明㋐にある「おどし防ぐ」存在となっていることに注目する。

① X―㋐　Y―㋒
② X―㋐　Y―㋓
③ X―㋑　Y―㋒
④ X―㋑　Y―㋓

(ii)　【ノート】を踏まえて「私」の看板に対する認識の変化や心情について説明したものとして、最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19 。

① はじめ「私」は、ⓒ「某は案山子にて候雀殿」の虚勢を張る「案山子」のような看板に近づけず、家のなかから眺めているだけの状態であった。しかし、そばまで近づいたことで、看板は㋑「見かけばかりもっともらし」いものであることに気づき、これまで「ただの板」にこだわり続けていたことに対して大人げなさを感じている。

② はじめ「私」は、ⓑ「稲雀追ふ力なき案山子かな」の「案山子」のように看板は自分に危害を加えるようなものではないと理解していた。しかし、意を決して裏の庭に忍び込んだことで、看板の㋐「おどし防ぐもの」としての効果を実感し、雀の立場として「ただの板」に苦しんでいる自分に気恥ずかしさを感じている。

③ はじめ「私」は、自分を監視している存在として看板を捉え、㋐「おどし防ぐもの」と対面するような落ち着かない状態であった。しかし、おそるおそる近づいてみたことで、ⓒ「某は案山子にて候雀殿」のように看板の正体を明確に認識し、「ただの板」に対する怖さを克服しえた自分に自信をもつことができたと感じている。

④ はじめ「私」は、㋐「とりおどし」のような脅すものとして看板をとらえ、その存在の不気味さを感じている状態であった。しかし、暗闇に紛れて近づいたことにより、実際にはⓑ「稲雀追ふ力なき案山子かな」のような存在であることを発見し、「ただの板」である看板に心を乱されていた自分に哀れみを感じている。

⑤ はじめ「私」は、常に自分を見つめる看板に対してⓐ「群雀空にしづまらず」の「雀」のような心穏やかでない状態であった。しかし、そばに近づいてみたことにより、看板は㋑「見かけばかりもっともらし」いものであって恐れるに足りないとわかり、「ただの板」に対して悩んできた自分に滑稽さを感じている。

数学Ⅰ･数学Ａ 第１問[2]

三角比の値から表を用いて角の大きさを考察する問題で、角に対応する三角比の値、三角比に対応する角の大きさの双方について表を利用して求められるかが問われた。

答）コ.サシス 0.072 セ 2

〔2〕 以下の問題を解答するにあたっては，必要に応じて 41 ページの三角比の表を用いてもよい。

太郎さんと花子さんは，キャンプ場のガイドブックにある地図を見ながら，後のように話している。

参考図

太郎：キャンプ場の地点Ａから山頂Ｂを見上げる角度はどれくらいかな。

花子：地図アプリを使って，地点Ａと山頂Ｂを含む断面図を調べたら，図１のようになったよ。点Ｃは，山頂Ｂから地点Ａを通る水平面に下ろした垂線とその水平面との交点のことだよ。

太郎：図１の角度 θ は，AC，BC の長さを定規で測って，三角比の表を用いて調べたら 16° だったよ。

花子：本当に 16° なの？　図１の鉛直方向の縮尺と水平方向の縮尺は等しいのかな？

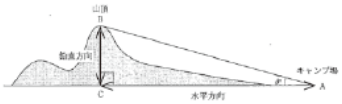


図　1

（数学Ⅰ・数学Ａ第１問は次ページに続く。）

図１の θ はちょうど 16° であったとする。しかし，図１の縮尺は，水平方向が $\frac{1}{100000}$ であるのに対して，鉛直方向は $\frac{1}{25000}$ であった。

実際にキャンプ場の地点Ａから山頂Ｂを見上げる角である ∠BAC を考えると，tan ∠BAC は [コ].[サシス] となる。したがって，∠BAC の大きさは [セ]。ただし，目の高さは無視して考えるものとする。

[セ] の解答群

⓪ 3° より大きく 4° より小さい
① ちょうど 4° である
② 4° より大きく 5° より小さい
③ ちょうど 16° である
④ 48° より大きく 49° より小さい
⑤ ちょうど 49° である
⑥ 49° より大きく 50° より小さい
⑦ 63° より大きく 64° より小さい
⑧ ちょうど 64° である
⑨ 64° より大きく 65° より小さい

（数学Ⅰ・数学Ａ第１問は 41 ページに続く。）

三角比の表

角	正弦 (sin)	余弦 (cos)	正接 (tan)
0°	0.0000	1.0000	0.0000
1°	0.0175	0.9998	0.0175
2°	0.0349	0.9994	0.0349
3°	0.0523	0.9986	0.0524
4°	0.0698	0.9976	0.0699
5°	0.0872	0.9962	0.0875
6°	0.1045	0.9945	0.1051
7°	0.1219	0.9925	0.1228
8°	0.1392	0.9903	0.1405
9°	0.1564	0.9877	0.1584
10°	0.1736	0.9848	0.1763
11°	0.1908	0.9816	0.1944
12°	0.2079	0.9781	0.2126
13°	0.2250	0.9744	0.2309
14°	0.2419	0.9703	0.2493
15°	0.2588	0.9659	0.2679
16°	0.2756	0.9613	0.2867
17°	0.2924	0.9563	0.3057
18°	0.3090	0.9511	0.3249
19°	0.3256	0.9455	0.3443
20°	0.3420	0.9397	0.3640
21°	0.3584	0.9336	0.3839
22°	0.3746	0.9272	0.4040
23°	0.3907	0.9205	0.4245
24°	0.4067	0.9135	0.4452
25°	0.4226	0.9063	0.4663
26°	0.4384	0.8988	0.4877
27°	0.4540	0.8910	0.5095
28°	0.4695	0.8829	0.5317
29°	0.4848	0.8746	0.5543
30°	0.5000	0.8660	0.5774
31°	0.5150	0.8572	0.6009
32°	0.5299	0.8480	0.6249
33°	0.5446	0.8387	0.6494
34°	0.5592	0.8290	0.6745
35°	0.5736	0.8192	0.7002
36°	0.5878	0.8090	0.7265
37°	0.6018	0.7986	0.7536
38°	0.6157	0.7880	0.7813
39°	0.6293	0.7771	0.8098
40°	0.6428	0.7660	0.8391
41°	0.6561	0.7547	0.8693
42°	0.6691	0.7431	0.9004
43°	0.6820	0.7314	0.9325
44°	0.6947	0.7193	0.9657
45°	0.7071	0.7071	1.0000

角	正弦 (sin)	余弦 (cos)	正接 (tan)
45°	0.7071	0.7071	1.0000
46°	0.7193	0.6947	1.0355
47°	0.7314	0.6820	1.0724
48°	0.7431	0.6691	1.1106
49°	0.7547	0.6561	1.1504
50°	0.7660	0.6428	1.1918
51°	0.7771	0.6293	1.2349
52°	0.7880	0.6157	1.2799
53°	0.7986	0.6018	1.3270
54°	0.8090	0.5878	1.3764
55°	0.8192	0.5736	1.4281
56°	0.8290	0.5592	1.4826
57°	0.8387	0.5446	1.5399
58°	0.8480	0.5299	1.6003
59°	0.8572	0.5150	1.6643
60°	0.8660	0.5000	1.7321
61°	0.8746	0.4848	1.8040
62°	0.8829	0.4695	1.8807
63°	0.8910	0.4540	1.9626
64°	0.8988	0.4384	2.0503
65°	0.9063	0.4226	2.1445
66°	0.9135	0.4067	2.2460
67°	0.9205	0.3907	2.3559
68°	0.9272	0.3746	2.4751
69°	0.9336	0.3584	2.6051
70°	0.9397	0.3420	2.7475
71°	0.9455	0.3256	2.9042
72°	0.9511	0.3090	3.0777
73°	0.9563	0.2924	3.2709
74°	0.9613	0.2756	3.4874
75°	0.9659	0.2588	3.7321
76°	0.9703	0.2419	4.0108
77°	0.9744	0.2250	4.3315
78°	0.9781	0.2079	4.7046
79°	0.9816	0.1908	5.1446
80°	0.9848	0.1736	5.6713
81°	0.9877	0.1564	6.3138
82°	0.9903	0.1392	7.1154
83°	0.9925	0.1219	8.1443
84°	0.9945	0.1045	9.5144
85°	0.9962	0.0872	11.4301
86°	0.9976	0.0698	14.3007
87°	0.9986	0.0523	19.0811
88°	0.9994	0.0349	28.6363
89°	0.9998	0.0175	57.2900
90°	1.0000	0.0000	—

（数学Ⅰ・数学Ａ第１問は次ページに続く。）

■英進館高等部について

1 「東進衛星予備校」

全国で 10 万人以上の高校生たちが東進衛星予備校のシステムを使って、自らの夢の実現の為に日々学習に励んでいます。東京大学853名、九州大学437名、国公立大学の医学部 1,032 名をはじめとする圧倒的な合格実績は、全て「現役生」のみの数です。

[圧倒的な合格実績を支える東進のシステム]

1 高速学習

東進の授業はおよそ 1 万種類。その中から、お子様一人ひとりのレベル・目標に合わせて講座を選びます。t-POD の映像配信による授業なので、通常1年近くかけて学習する内容を、1ヶ月程度(1週間に5コマペース)～3ヶ月程度(1週間に2コマペース)で「速習」することができます。学校行事や部活動など、自分のスケジュールに合わせて時間を有効活用できます。

2 スモールステップ・パーフェクトマスター

自分の現在の学力レベルに見合うレベルの講座からスタートし、段階を踏んで必要な学力レベルに到達する「スモールステップ」カリキュラム、「確認テスト」と「講座修了判定テスト」で、習ったことを定着させる「パーフェクトマスター」により、確実に学力を伸ばします。

3 実力講師陣

講師へのこだわり。それは最高の授業へのこだわりです。合格のために何が必要か知り尽くした有名実力講師陣の授業を、受講することができます。

4 担任指導

東進では、担任が「東進模試成績」「受講状況」「合格設計図」などに基づいて合格作戦面談を行い、最適な学習方法をアドバイスします。一人ひとりが抱えている課題をともに考え解決し、お子様のやる気を引き出しながら志望校合格までリードします。

5 高速マスター基礎力養成講座

英単語、英熟語、英文法、計算力、古文単語、古典文法、…など、学力向上に必要不可欠な「基礎学力」を、オンラインで徹底的に暗記・トレーニングします。オンラインなので、いつでもどこでも利用でき、効率よく基礎学力を養成できます。

6 通期講座

東進の実力講師陣による授業で、主に概念や考え方・解き方などを修得します。各講座、90 分×20 回の授業からなりますが、「高速学習」で集中的に学習することでさらに効果が高まります。各科目、レベル・分野ともに豊富なラインナップから学力を伸ばすための最適な講座を選ぶことができます。

7 過去問演習講座

合格のためには、必要な学力基盤を構築した上で、その「学力」を「得点」に結びつける力が必要不可欠です。「過去問演習講座」で 10 年分の過去問徹底演習、大問分野別の徹底演習、解説授業を通して得点力を養います。難関国公立大については「添削指導」もあります。

8 志望校別単元ジャンル演習講座

最新の AI を活用した演習講座です。学力診断を元に志望校に合格するために学習すべき単元・ジャンルの問題を、30 万問以上のデータベースから探し出し、「必勝・必達セット」として提案します。最新の AI を活用した、一人ひとりに最適な志望校対策を実現する日本初の学習システムです。

9 東進模試

東進模試は偏差値による「相対的な」学力評価だけでなく、「合格まであと何点伸ばせばよいか」が明らかになるため、連続受験することで、次に向けて明確な目的意識と的確な学習計画が可能になり、着実に学力を伸ばすことができます。

さらに、将来についての考えや「夢」や「志」を深めるための大学学部研究会などの「未来発見講座」や、「英語4技能」を鍛える講座もあります。お子様の安全管理のための「登下校メール配信サービス」、保護者様がお子様の受講状況や東進模試成績などをご覧いただける「保護者用学力 POS」システムもあります。

2 天神本館高等部TZクラス

特長① 東大・京大・九大・国公立大医学部などの難関大の現役合格を目指すクラスです。

現役合格を果たすための重要な要素の一つは、厳選された大学入試の過去問題の演習に十分な期間、取り組むことです。天神本館TZクラスでは、高校3年の1年間を過去問題の演習と解説授業を行う期間としています。一例ですが、理系進学クラスは、高校2年の2月までに『数学Ⅲ』の単元学習が終了するカリキュラムを組んでいます。

※各高校の授業進度や定期考査の範囲に合わせたカリキュラムではございませんので、予めご了承ください。

特長② 受験の根幹である英語・数学を先取り学習＆徹底強化！

英進館天神本館高等部TZクラスは、英語と数学を基幹教科としています。人気の集まる難関国公立大学入試においては、文系学部・理系学部問わず、数学・英語は共通テストでも二次試験でも入試科目として課され、高い配点を占めます。したがって、英語と数学を「早期に」高い学力レベルまで完成させるということが、難関大学合格の絶対条件となります。

特長③ 数学と英語は、教科ごとにクラス編成します。

従来は、「数学と英語の合計点」でのクラス編成でしたが、2022年度から、数学・英語それぞれの点数でそれぞれのクラスを編成いたします。2教科合計でのクラス編成では、数学と英語に学力差がある場合、一方の授業のレベルが自分に合わず、学習効果が半減する可能性があるためです。英語・数学ともに、同レベルの学力を持つライバル同士で切磋琢磨できる環境をみなさんに提供いたします。

特長④ 1教科（週1日）からご参加いただくこともできます。

天神高等部TZクラスは、数学と英語の2教科（週2日）参加していただくことを基本としています。また、土曜日に開講する「東大クラス」や「ハイレベルクラス」にも参加（週3日）し、さらなる実力アップを目指してもらいたいとも考えています。しかし、諸事情により週2日（3日）通うことがどうしても困難な方もおられると思います。2022年度より、1教科（週1日）だけのお申し込みも受け付けます。ただし、週1日（1教科）のみの方であっても、年に3回あるクラス分けテストは、必ず数学・英語の2教科とも受験していただきます。